

式 辞

冬の寒さも和らぎ、朝夕の日差しに春の訪れを感じる今日の佳き日に、富田同窓会副会長様・土橋PTA会長様をはじめ、多くのご来賓の皆様のご臨席を賜り、ここに第72回群馬県立前橋女子高等学校卒業証書授与式を挙行できますことに、心よりお礼申し上げます。また、今日まで長きにわたってご息女の勉学を支え励ましてこられた保護者の皆様、本日、りっぱに成長した我が子の姿をご覧になり、そのお慶びはいかばかりかと、拝察いたします。

ただ今、卒業生316名に対して、卒業証書を授与いたしました。卒業生の皆さん、本当におめでとうございます。これまでの皆さんが積み重ねてきた努力と研鑽を心より讃えたいと思います。

今、3年間を振り返ったときに、どんなことを心に浮かべるでしょうか。皆さんは、平成29年4月に希望に胸を膨らませ本校の門をくぐりました。本年創立110周年を迎える、歴史と伝統を持つ本校で、「賢く、明るく、強く、気高く」という校訓を拠り所として、「学力の強化」はもとより、「人格の陶冶」「心身の鍛練」「品性の涵養」を標榜する本校の教育目標に沿って、勉学や部活動、そして学校行事に全力で取り組み、数々の素晴らしい成果を上げると共に、自分自身を大きく成長させました。また、大学受験は大きな試練ではありますが、これに向けて努力を惜しまず学習に励んできました。積み重ねた研鑽の日々は、生涯忘れない思い出となるはずです。高い能力と豊かな感性を備えた生徒達が、ここ前女につどい、お互いに切磋琢磨し、勉学や行事で達成感を味わうと共に、時には人の痛みにも共感したり、友情の素晴らしさを身にしみて味わった経験は、これからの人生に大きな自信と活力を与えてくれるものと確信致します。

ただ、忘れてはならないのは、卒業は、皆さん一人一人の努力のたまものでありますが、同時に、これまで手塩にかけて育ててこられたご家族や、熱心に指導してこられた先生方、また支えてくれた友達など、たくさんの人たちの支援のお陰でもあります。周りの人々への感謝の気持ちはいつまでも持ち続けてください。

皆さんが活躍するこれからの時代は、科学技術の進歩、特にAIの急激な進化により、世の中の変化のスピードが速く、10年先を見通すことも困難な時代と言われています。AIの進化は私たちの生活を豊かで便利なものにするには間違いありません。しかし良い面ばかりではありません。雇用の面では、オックスフォード大学のマイケル・オズボーン教授らは、10年から20年の間に、現在ある仕事の半分近くがAIに取って代わると予想しています。雇用が奪われる分、新たな仕事生まれてくるでしょうが、それまでの間の雇用状況には不安が残ります。

また日本国内では、少子化が進む中での地方の衰退、高齢化が進む中での医療費等の社会福祉費の増大、そして地球環境に目を向けると、温暖化による気候変動問題など課題も多くあります。こうした状況の中で、生活レベルの向上また生命科学・医療技術の飛躍的な進歩により、人生100年と言われるように、皆さんの多くは100歳前後まで生きることが可能となるのです。

そのような時代を生きる皆さんに心にとめて欲しい点が3点あります。

1点目は、「寛容さ」を大切にして欲しいと言うことです。現在、世界の情勢を見ると、グローバル化により国を超えた人々のつながりが拡大したかと思いきや、「自国ファースト」を掲げ、異質なものを排斥する動きが強まる傾向にあるように思えます。またコミュニケーションツールとして大変便利な SNS の利用は、自分と同じような価値観を持った人達とだけのコミュニケーションとなる場合が多く、考えの異なる人に対する無理解や偏見につながる面もあることが指摘されています。しかし異質な考えを持つ人がいても、その人を排除するのではなく、寛容さを持ち辛抱強く対話する中でこそ、新たな考えや物が創造されるはずで、前女生の誇れる点の一つが、様々な考え方の人がいても、そういう人達を仲間はずれにすることなく、むしろ尊重し互いに高めあってゆける、ということでした。ぜひ、卒業後も寛容さを忘れず、意見の異なる人がいても排除することなく、むしろ興味関心をもって対話を持ち、そこから、これからの時代を創造してゆける人となって欲しいと思います。

2点目は、「生涯学び続ける」ということです。ロンドン大学ビジネススクールのリンダ・グラットン教授は「The 100 Year Life」という本の中で、人生100年時代の人生設計は、皆さんのご両親世代までがたどってきた人生設計とは異なり、教育、勤労、退職という3つの人生段階から、マルチステージ、すなわち複数の段階に変わってゆくことになるだろうと述べています。仕事を変え、今述べた3つの段階を行ったり来たりしながら、70歳80歳まで働く社会になるだろうと予測しているのです。そこで必要となるのは何か。それは生涯「変身」を続けること、そして生涯学習を続ける覚悟だと述べています。AI に現在ある仕事の多くが取って代わられる時代においては、新たな仕事も生まれてくるでしょうが、それに対処するためにも学び続ける必要があるのです。

3点目は、「レジリエンス（立ち直る力）」をしっかり持とう、ということ。人生は穏やかで幸福なときもあれば、嵐が吹き荒れるときもあるでしょう。ましてやこれからの変化の激しい時代においてはそうです。イスラエルのヘブライ大学教授のユバル・ノア・ハラリ氏は著書「21 Lessons 21世紀の人類のための21の思考」の中で、21世紀を豊に生きるためには、学び続け新たな能力を身につけてゆくと共に、精神の柔軟さ、そして感情のバランスをとる能力が極めて重要だと述べています。画一的な生き方にとらわれず、心と体の健康を保ちながら生きて欲しいと思います。

世界経済フォーラムが調査した2019年の「ジェンダー・ギャップ指数」では、日

本は世界順位が121位と残念な結果でしたが、女性のさらなる活躍なしには今後、日本はやってゆけないことは言うまでもありません。先が見えない不透明な時代にあつて、不透明な時代であるからこそ、前女生には校歌にもありますように、世の中に「光をともしもの」となつて、志を高く持ち、これからの時代を明るく豊かなものにして行つて欲しいと思います。

最後に、三年間にわたり、卒業生を温かく見守り、本校の教育に多大のご支援を賜りました同窓会並びにPTAの皆様にご心より御礼申し上げますとともに、この学舎を巣立ちゆく卒業生の皆さんの前途に、幸、多からんことを心から祈念して『式辞』といたします。

令和2年3月2日

群馬県立前橋女子高等学校校長 戸塚 泰聖